



## 第3次下田市観光まちづくり推進計画

令和8年3月  
静岡県下田市



# はじめに

東海道線の沿線に行くと広い土地に大きな工場が建ち並ぶのを目にして、下田市との違いを感じます。

江戸時代から昭和中期までは海運が盛んだったため、下田も港町として栄えましたが、下田ドックが閉鎖してからは船舶関係の仕事も大きく減少し、下田市の産業構造は大きく変わりました。

一方で、高度経済成長の中、旅行というレジャーがブームとなり、さらに伊豆急行線も開通したことから下田は観光のまちとして賑わいを見せました。

しかし、その後のモータリゼーションの進展に伴い、道路網が脆弱な伊豆南地域は次第に来遊客が減り、活力を失っていきました。

こうした中、観光を「まちづくり」の一環として再定義して戦略的に取り組むこととし、官民一体となってスタートしたのが、この下田市観光まちづくり推進計画です。

初めて策定した計画（2013年～2020年）では地域資源を掘り起こし、世界一の海づくりや美味しいまちづくり等に取り組んできました。第2次計画（2020年～2025年）では新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の社会情勢のもとで観光客を受け入れることとし、リスクマネジメントする「下田モデル」等の事業を展開してきました。そして今般、<sup>オーセンティック</sup>「本物」という価値に光を当て、第3次計画としてとりまとめたものが本稿です。

近年、圏央道や伊豆縦貫自動車道などの道路整備が進んだことから、首都圏だけではなく国内外から多種多様な人々が訪れるようになってきました。

政府は国家戦略としてインバウンド、つまり外国人観光客を増やす取組を推奨しており、それに合わせて全国各地で魅力的に演出した景観まちづくりが広がっています。

一方、ここ下田は、過度に演出されていない素顔のまちとしての魅力があると評価されています。私たち地元にとって「日常」のものが、観光客には「非日常」であり、市民の皆様がごく普通に日々を送っているその景色が美しいということです。

ですから、本市の観光まちづくりは、非日常を作りこむのではなく、この地域に息づく暮らしや文化といったありのままの魅力を磨き上げ、来訪者に届けようというものです。日常の中にある価値に光を当て、市民の皆様一人ひとりが主役となるまちづくりを進め、訪れた人々がうらやむような素敵な下田を目指してまいります。そのプロジェクトに多くの市民の皆様のご参加をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

令和8年3月

下田市長

松本正一郎

